

『万葉集』から見る日本の古典

獨協大学特任教授 城崎 陽子

御船征西 — その1 —

先回までは『万葉集』巻二の挽歌冒頭部に載る有間皇子の歌を取り上げ、その作品群が物語る有間皇子への追慕と「結び松」が象徴する有間皇子伝承をみた。今回からは、「御船征西」と題し、百濟滅亡といった歴史的背景やその援軍に向かった齊明天皇の「征西」にまつわる歌や伝承を取り上げる。

まずは、歴史的背景となつた百濟滅亡のことから説明しよう。

齊明天皇五年(六五九)新羅と唐の連合軍が百濟を攻め滅ぼした。百濟の復興に立ち上がった百濟の遺臣・鬼室福信は、人質として日本にあつた百濟の王子豊璋の返還と救援軍の派遣を求

めて来た。朝廷は、この要請をうけることにした。以下、『日本書紀』の關係記事掲げる。なお「」内は異伝である。

九月の己亥の朔にして癸卯(五日)に百濟、達率(名を關せり)沙弥党徒等を遣して来て奏して曰さく、「或本に云はく、逃げ来て難を告すといふ。」「今年七月に、新羅、力を待み勢を作して隣に親びず。唐人を引構せて、百濟を傾け覆す。君臣総倅にして、略嚙類無し。(中略)是に、西部思率、鬼室福信、赫然り發憤りて、任射岐山に挾る。(或

本に云はく、北任叙利山なりといふ。)達率余自進、中部久麻怒利城に挾る。(或本に云はく、都々岐留山といふ。)各一所に營みて、散けたる卒を誘り聚む。兵、前の役に尽きたり。故、梧を以ちて戦ふ。新羅の軍破れ、百濟其の兵を奪ふ。既にして百濟の兵翻りて銃し、唐敢へて入らず。福信等、遂に同國を鳩集めて、共に王城を保つ。國人尊びて曰く、「佐平福信、佐平自進」といふ。唯し福信のみ、神武之權を起して、既に亡びし國を興す」とまをす。

冬十月に佐平鬼室福信、佐平貴智等を遣して、来て唐倅一百余人を献る。(中略)又、師を乞して救を請ふ。并せて王子余豊璋を乞して曰さく、「(中略)方今し謹みて願はく



齊明天皇の御陵が営まれたとされる恵蘇八幡宮(福岡県朝倉市)

は、百濟国の、天朝に遣し侍る王子豊璋

を迎へて國主と為さむとす」と云々まをす。

齊明天皇二行が、百濟救援のために難波の津を出港、西征の途についたのは、七年(六六一)正月六日のことであつた。十四日には伊予の熟田津の石湯(愛媛県道後温泉)の行宮に泊まつている。

そのおりに詠んだという額田王の名高い歌が伝えられる。当該の歌は、「船団を整えて、潮待ちしていたところ、ちよūdよい潮となつた、いざ出発しよう」という歌だとされるが、左注に山上憶良の『類聚歌林』の伝えも引く。それは、舒明天皇の御代に伊予の湯を訪れた齊明天皇は、再びこの地を訪れ、昔な

がらに残されていたものを見て心を動かした、その時の歌だと言ひ、額田王の歌は他に四首あるとも言う。歌が伝承されるうちにその由来がいくつかにわかれてしまつた結果であろう。こちらを採ると、当該の歌は「舟遊び」の歌になる。いづれも伝承は時の真実を伝えているから、どちらが間違つていてどうかとは言えない。

後岡本宮に天の下治めたまひし天皇の代「天豊財重日足姫天皇、讓位の後、後岡本宮に即きたまふ。」

額田王の歌 熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな

(卷一・八番歌) 右、山上憶良大夫の類聚歌林に檢すに、曰く、「飛鳥岡本宮に天の下治めたまひし天皇

の元年己丑、九年丁酉の十二月、己巳の朔の壬午(十四日)に、天皇・太后、伊予の湯の宮に幸す。後岡本宮に天の下治めたまひし天皇の七年辛酉の春正月、丁酉の朔の壬寅(六日)に、御船、西つかたに征さ、始めて海路に就く。庚戌、御船、伊予の熟田津の石湯の行宮に泊つ。天皇、昔日の猶し存れる物を御覽して、當時に忽ちに感愛の情を起したまふ。所以に因りて歌詠を製りて哀傷したまふ」といふ。即ち、この歌は天皇の御製なり。ただし、額田王の歌は別に四首あり。

熟田津出港はいつとも知れないが、朝倉の大津(博多湾)に到着したのは三月二十五日である。熟田

津から博多湾まで二か月以上もかかるはずがない。このとき六十八歳であつた齊明天皇は、夫舒明天皇との曾遊の地でもある道後温泉で二か月間ほど入湯療養したのである。

三月の丙申の朔にして庚申(二十五日)に、御船、還りて朝倉大津に至る。磐瀬行宮に居します。天皇、此を改め、名けて長津と曰ふ。

博多湾に到着後、朝倉橘広庭宮を造り、ここに遷居した齊明天皇は四月後の七月二十四日、朝倉橘広庭の宮(福岡県朝倉郡朝倉町)で崩御された。朝倉宮造営のために朝倉社の木を伐つたため、神の怒りに触れたり、その葬儀のあらましを朝倉山から大きな笠を着けた「鬼」が見ていたという。

て癸卯(九日)に、天皇、朝倉橘広庭宮に遷り居します。是の時に、朝倉社の木を斫り除ひて、此の宮を作りし故に、神怒りて殿を壊つ。亦、宮中に鬼火を見る。是に由りて、大舍人と諸の近侍、病みて死ぬる者衆し。(中略)

不思議な出来事が次々と起こつたのである。

